

アクセスみなみ

コロナ禍の外国人に聴く

在住外国人が抱えている不安・課題について

オンライン会議でインタビューしました (5/12)



国際交流ラウンジなどの外国人相談窓口が対面での相談を行っていないこともあり、在住外国人にどんなことで困っているのかなどを、オンラインで直接ヒアリングする機会をもうけました。経済的な困りごとや生活への不安など、生の声を聴くことができました。

生活上の不安の声

祖国にいる母はコロナウィルスで亡くなりました。妹も感染しました。みんな心がきずついています。家族とのつながりを保ちたくても直接会えないですし、オンラインの環境がない人もいますので、不安で仕方ないです。友達とも会えない、近くにいる姪にも会えない。悲しくて泣けてきます。一人暮らしで感染したら、誰も助けてくれない…どうしたらいいかわからないです。



経済的な不安の声

5月から店頭のみで営業をしています。生活のことを考えると怖くなってきます。2月から収入が減りだし、現状は、収入が全くないです。それでも、スタッフの給料は払わなくてはいけません。家賃も発生します。一番困っているのはお金のことです。自分の給料は0円です。

様々な手続きが難しい

国の補助金を利用して、家賃をまかなっていますが、補助金の申請がとても難しく、社会労務士など専門の方に手伝ってもらうことが必要です。若い世代ならネットを利用して申請することもできるかもしれませんが、ネット利用が難しい方もいるので、手続き自体が難しいと感じています。



前向きな声も

3月はじめに店を開業しようと準備していましたが、コロナの影響で先送りになっています。収まる心配がなく、店舗の家賃の支払いもありますので、援助を待つより、自分で動き出すしかないと思い、まず、デリバリーを始めました。年末まで収束しない可能性もあり、自分で切り開いていくべきだと思ったからです。自分から動き出すと、違う道も開けてくるのではと感じています。

声をきいて

今回の参加者から、実際に不安に思っていることや言葉の面で困っていること・どこに聞いたらよいかかわからない、などの声を聞き、参加者の皆さんには、個別に相談先など情報提供をしました。いろいろな情報があるのでまとめてもらえたら嬉しい、という意見もありましたので、みなみラウンジとして、これからも適切な情報提供ができるようにしていきたいと思っています。



6月1日から開館しています。
来館の際には、マスクの着用・手指の消毒・
体温測定などへのご協力をお願いいたします。



特集：オンライン会議ってなに？



コロナウイルス感染症拡大防止のために、外出自粛が呼び掛けられ、実際に会う機会が激減した最近、ニュースでも職場でも、よく耳にする「オンライン会議」「web会議」について、調べてみました。



「今度の会議は「オンラインで」と言われたけど・・・よくわからない・・・」

「オンライン会議・web会議」とは、LINEの「ビデオ通話」やiPhoneの「FaceTime」、Skypeの「ビデオ通話」のようにお互いの顔を見ながら会話できるサービスをインターネット環境を使って行うコミュニケーションです。オンライン会議と一言にいってもZoom(ズーム)やSkype(スカイプ)、LINE(ライン) など様々な種類があって、何に手を付けて良いのか分からないというのが最初の疑問だと思います。それぞれメリットデメリットがありますので、コミュニケーションをとりたいグループの用途に合わせて選ぶ必要があります。

オンライン会議・Web会議を導入するメリットは「1か所へ集まることなくコミュニケーションが取れること」

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ミーティングをどうしようか迷っている NPO・市民活動団体も多いと思います。身近なスマホで、気軽に集まれるLINEグループでビデオ通話を試みることから始めてもいいですね。ただ、団体のミーティングで、Lineやface timeを利用するには個人情報が必要になりますし、skypeはアカウントの取得が必要です。こちらから相手にWebミーティングをお願いするのに、新たにアカウントを取得してもらい、ソフトをセットアップしてもらおうというのはハードルが高いと思います。そうかといって、本格的なテレビ会議システムを導入するスペースもコストもない団体の方が多いと思います。希望としては、複数人で同時通話する機能があって、PCを持っていなくても参加できるものがあると、ミーティングが開きやすいのではないかと、思います。そんな希望を叶えてくれるものの一つが、「zoom」です。

「zoom(ズーム)」は、会議の主催者から招待URLをもらえば、だれでも気軽に参加でき、時間制限はありますが、無料で利用できます。準備するものも、カメラとマイクのついている端末(PC・スマホ・タブレット)があれば、どこからでも参加できるもので、難しいものではありません。まずは、「ミーティングに参加する」ことから始めてみませんか？

ZOOMって何？に答えてくれるサイト
https://zoomy.info/manuals/what_is_zoom/



オンライン会議についてよくわかるサイト「市民セクターよこはまHP」

オンライン会議ツールを活用しよう (初級編)
https://shimin-sector.jp/report/howto_online_meeting/
 zoom (ズーム) の始め方 Step1: 招待された会に参加する方法
https://shimin-sector.jp/report/zoom_step1/
 zoom (ズーム) の始め方 Step2: 自ら主催して会を開く方法
https://shimin-sector.jp/report/zoom_step2/
 zoomを使いこなそう！～基本操作～
https://shimin-sector.jp/report/zoom_step3/

シリーズ：タウンニュースの記者が“見た・聞いた・感じた”



門馬編集長 (撮影: 若尾久志)

このコーナーでは、地域情報新聞「タウンニュース」南区版の門馬康二編集長が、日々、南区を回中で感じたことなどを綴っていきます。門馬編集長は南区を担当して14年目。区役所などの行政機関や商店、市民団体などを取材し、イベントなどの現場にも足を運んで記事を書いています。

南消防団に初の外国人団員

南消防団に5月、初の外国籍団員となる中国籍の林海国さん(36)が入団しました。

4月から横浜市内の消防団入団のルールが変わり、在日外国人も入団できるようになりました。条件は2年以上の在留期間があり、日本語でのコミュニケーションが取れる人です。4月以降、戸塚、山手の両消防団に外国籍団員が加わっています。

外国人の防災意識を高めてもらうことなどを目的に、消防団や南消防署は、みなみ市民活動・多文化共生ラ

ウンジに依頼し、入団希望者を探してきました。林さんは小学校で中国籍児童を支援するボランティア活動をしており、ラウンジから消防団を紹介され「消防署のそばに店があり、防災について考えることが多かった」と入団を決めました。

林さんは中国・吉林省出身。20歳で来日し、3年前、浦舟町に中華料理店「吉龍釜」を開業しています。「中国人と日本人がコミュニケーションを図れるよう、架け橋になりたい」と



林さん(中央)と消防署長(左)、消防団長(右)

流ちょうな日本語で抱負を述べていました。

今後、林さんのような外国人コミュニティの核となる方が増えることによって、共生の社会が広がっていくと実感しました。

日本語web連絡会 レポート 5/26(火)

日本語教室支援担当スタッフの話

今日の連絡会のための準備は、1か月ほど前から始めました。参加する方の多くはオンライン会議で使うzoom自体初めてで、最初の反応は「zoomって何？」という感じでした。

まずは、個別に電話で、個人のネット環境のヒアリングから始めて、システムの説明・zoomのダウンロード・登録の仕方・カメラマイクのチェックののち、練習会へ参加してもらいました。3回設定した練習会には毎回8名ほどの方が参加していただき、ご自分のタブレットやスマホ・パソコンからの参加がスムーズにできるかの確認をしました。

当日は、連絡会の進行を担当しましたが、聞こえていないのか、OKなのかNGなのか、行動の言語化など、対面以上のコミュニケーションを取らなければならないことに気が付きました。

ジェスチャーで、わかりやすく！



コロナ感染症拡大防止のため、実際に集まって会議をすることができなかつたため、当ラウンジを利用している日本語教室の連絡会をzoomで行った様子を取材しました。



みなみVクラブ (加藤さん)

今回zoomは初めてでしたが、特に戸惑いはありませんでした。ただ、発言は一人づつでないと感じました。日本語の勉強に取り入れるとしたら、1対1もしくは1対2でしたらよさそうだと思います。チャットの機能をもう少し詳しく知りたいと感じました。スマホで簡単に始められ、慣れていけばうまくいくと思います。

事前に練習会があったり、you tubeをチェックしたりして本番に臨めたのがよかったです。手順をうまく教えてもらえれば、それでも会議に参加可能で、会議に参加できれば、サイトの中で参加者と助けあえます。

最初はドキドキ、でも大丈夫！

最初はドキドキ、でも大丈夫！

とも南日本語教室 (大島さん)

とにかく、無事に連絡会が終わりホッとしています。パソコンの扱いに不慣れなので、不安でしたが、ほかの日本語教室の皆さんの顔を見て話が聞けたこと、同感できる部分も多く、日本語支援の仲間であらわれてよかったと感じることができました。雑音が入ってうまく聞きとれなかったり、実際に会って話すときのような反応が身近に感じられない気がしてしまい、自分の言いたいことが誤解なく伝わっているのか不安に感じる部分もありました。日本語教室の支援は対面式がいいとは思っていますが、今回のようなやり方もあると知って、時代が変わっていていることも実感しています

全てが初めて！

操作がわかると面白い！

YMIにほんご (広田さん)

Zoomをやってる人の話は聞いたことがありましたが、自分が実際に参加するのは初めてでした。15分の予定の練習会は、一つ一つの操作(ミュートにする・自分の顔を映す・チャットの書き方等)を丁寧に教えてもらっていたら、あっという間に40分が過ぎてしまった。操作がわかると面白い！

慣れていないと一つ一つの操作にも時間がかかるし、活動に活かすレベルまでになるにはもっと時間をかけて勉強しなければならないと思いました。操作に慣れてくれば、個人対応で日本語を教えるなど、有効に使えるのかもしれないと感じています。自分の発言に対する周りの参加者の表情が硬くて読み取りにくいと感じました。意見交換の途中で浮かんだ意見を出しにくい。意見を重ねて出すのは難しそう。など課題も感じました。

南区内施設紹介「南スポーツセンター」

住所：南区大岡1-14-1 電話：045-743-6341

南スポーツセンターは、地下鉄「弘明寺」駅から徒歩5分の場所にあり、「大岡地区センター」「大岡地域ケアプラザ」の3施設を合わせて、「大岡健康プラザ」となっています。各施設利用者が別の施設も併せて利用することができる利点があり、また、近くに横浜国大の留学生会館があることから、東南アジア・アフリカ・ロシア等の外国人の利用も多いのが特徴です。スポーツ教室や健康づくり教室等を年間約70教室(3000回程度)実施しています。また、卓球協会・バドミントン協会・太極拳協会等と連携し、各種目教室の講師を依頼・指導してもらっています。子供向けフットサル教室では、J3所属チーム(yfcc)からインストラクターを招き、人気の教室となっています。

スポーツセンターでは、新規利用者の間口を広げるために予約不要で気軽に参加できる教室を開催したり、カルチャー講座等を開設し、スポーツや健康に関心が薄い方々にも施設に足を運んでもらえる機会を作っています。

新型コロナウイルス感染防止のため、今年3日まで休館しておりましたが、4日から一部利用開始となりました。事前予約団体のみ、体育室や研修室などの施設が利用できます。

感染拡大防止対策のため、更衣室・トレーニングルームは当面使用不可、共有スペースは「ソーシャルディスタンス」を十分とっての利用、など制約はありますが、ぜひ健康増進・体力向上のため、お気軽にお越しください。



大岡健康プラザの入口



昨年2月に行われた、スポーツフェスタの様子



立ち上げの経緯と活動の目的

2015年川崎で起こった中学1年生殺害事件に関与した若者が外国につながることもたちだったことを受け、そんな10代の子ども達が自由に表現しそのままでの姿が良しとされる環境作りとして、2016年横浜インターナショナルユースフォトプロジェクトを開始。このプロジェクト継続のため、フォトジャーナリストの大藪順子を軸に写真家・写真好きが結成した団体です。

社会でマイノリティーと呼ばれる人たちが自身が写真を撮ることを通してメインストリームではなかなか見えない世界を内側から表現し、なかなか聞こえない声をビジュアル化し、写真展やギャラリートークを通して発信することを目的としています。



活動に参加している若者たち

現在の活動

- 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト：外国ルーツの中高校生プロジェクト。毎年1月に象の鼻テラスとあーすぷらざで写真展開催。みなみ市民活動・多文化ラウンジでも毎夏ミニ展示を開催。今年も7月4日から予定。
- 性暴力サバイバービジュアルボイスSTAND Stillプロジェクト：公に#MeTooと言えない・言わない人が写す側に立ち、自由に表現する場を提供。アートフォーラムあざみ野（19年12月）、東京都人権プラザで写真展とギャラリートーク（20年1月～3月）開催。
- ユースフォトプロジェクトのボランティア育成講座も兼ね、写真を読み解き、ビジュアル情報 の影響を考えるおとな用講座「写真は語る」開催。
- その他過去に、交通遺児友の会、かながわ国際交流財団&神奈川県立現代美術館主催の写真プロジェクトの運営実施。



参加者が撮影した写真

★外国ルーツの中高生の写真展を開催

7月4日(土)～7月31日(金)：みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ 交流コーナーにて

★今年度の横浜インターナショナルユースフォトプロジェクトの参加者募集中。初回：8月30日(日)15:30
参加費無料。交通費支給。貸出カメラあり。

街の先生ガイド2020を 発行しました。

南区では、現在150名ほどの街の先生が登録し、ご自分のスキルを活かし、地域のイベントや、施設や学校などで活躍しています。「町内会・子供会・老人クラブなど、地域のイベントや講座で教えてくれる先生がみつからない」そんな時、南区「街の先生」に依頼してみませんか？ガイドは南区内の各施設・学校等にあり。最新の情報は、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジのHPで公開しております。



<新スタッフの紹介>

趙春梁(チョウ・シュンリョウ)

～2002年に中国大連から来日～



あっというまに日本にきて18年間で過ぎました。この間、楽しかったことも悔しかったことも色んな出来事がありました。

困っている自分が助けられた時の気持ちを忘れる事なく、自分が経験したことや知り得た情報を皆さんと共有し、誰かのプラスになるように取り組んで参ります。

高麗丹(コウ・レイタン)

～中区鶴見区のラウンジでも勤務～



人と接する事が好きで、大学の専攻を心理学にしました。その時からボランティア活動に参加しており、充実感満載です。

日本や色々な国の文化や神話などに興味津々で、話すことも勉強の一つと思っています。頑張っ続けていこうと思っています。宜しくお願いします。

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジは、誰もが心豊かでいきいきと生活できる元気な地域を実現するために自主的な活動を応援します。市民活動・生涯学習の相談・情報の提供、機材の貸出・ミーティングスペース等の利用ができます。

活動のPR・仲間募集をしませんか？

利用登録団体は、各団体がやっている市民向け講座やイベントなどのPR、メンバー募集などをすることができます。ご希望の際には、いつでもご連絡下さい。

次回原稿〆切：8月 10日 (9月発行)

発行：みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

〒232-0024

横浜市南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設10階

045-232-9544 (日本語)

045-242-0888 (外国語)

当施設は南区から委託を受け、YOKEが運営をしています。

